

資料

2015年度における生物（動物関係）に関する問い合わせ状況

中島 淳・石間妙子・金子洋平・須田隆一

当所で窓口依頼検査以外で回答した動物に関連する問い合わせの内容について概要をまとめた。2015年度は電話や持ち込み、電子メールによる質問が51件であった。問い合わせは県庁各課・保健福祉環境事務所等の県機関からのものが27件、市町村からのものが11件、一般県民からのものが7件、民間業者からのものが6件であった。これらのうち49件は不明種の同定依頼であり、中でも特定外来生物であるゴケグモ類疑い種の同定依頼が18件、同じく特定外来生物であるツマアカスズメバチ疑い種の同定依頼が12件と多かった。ツマアカスズメバチに関する問い合わせは前年度までではなく、2015年9月に県内ではじめて発見されたことが大きく報道された影響と考えられた。

[キーワード：衛生害虫、ペストコントロール、ハチ、ダニ、クモ]

1 はじめに

当所では窓口依頼検査として生物同定検査を実施しているが、それ以外にも日常的に電話や持ち込みによる生物に関する問い合わせに答えることが多い。本報では2015年度に寄せられた質問のうち、動物に関連するものについてその内容をまとめた。

2 方法

動物に関連する各問い合わせについて、依頼元を県、市町村、民間業者、一般県民、その他の5つに区分した。また、質問内容については不明種同定依頼、ゴケグモ類疑い種の同定依頼、マダニ類疑い種の同定依頼、ツマアカスズメバチ疑い種の同定依頼、生物多様性・外来種に関するもの、その他の6つに区分して整理した。

3 結果及び考察

表1に2015年度の月ごとの問い合わせ件数を示す。全体で51件の問い合わせがあり、最も問い合わせが多かったのは9月の12件で、次いで10月の8件、7月の7件であった。一方で、11月から3月にかけての問い合わせはいずれも0-2件と少なかった。全体の問い合わせ件数は2010年度が24件、2011年度が24件、2012年度が57件、2013年度が68件、2014年度が52件であり¹⁻³⁾、問い合わせ件数は前年度と同程度であった。

図1に問い合わせの依頼元と件数を示す。問い合わせは県機関からのものが最も多く、次いで市町村、一般県民、民間業者の順であった。県機関では保健福祉環境事務所からの問い合わせが多かったが、ほぼすべての場合において所管市町村あるいは県民からの質問の仲介であった。また、市町村からの依頼も同様に一般市町村民からの質問の仲介であった。依頼元の傾向は2010-2014年度と比較して、大きな違いはなかった。

表1 各月における内容別の問い合わせ件数

質問内容	月												計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
不明種同定依頼	2	2	3	2	1	1	2				1	1	15
ゴケグモ類疑い	1	4	1	5	1		4	1				1	18
マダニ類疑い	1		2			1							4
ツマアカスズメバチ疑い						10	1			1			12
生物多様性・外来種					1								1
その他							1						1
計	4	6	6	7	3	12	8	1	0	2	0	2	51

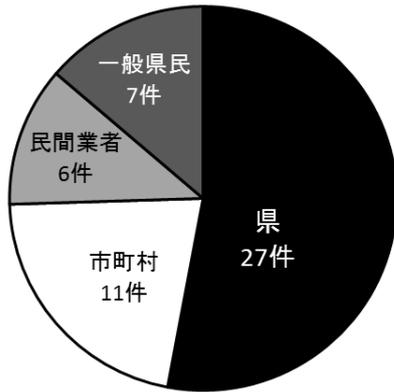


図1 2015年度における問い合わせの依頼元の件数

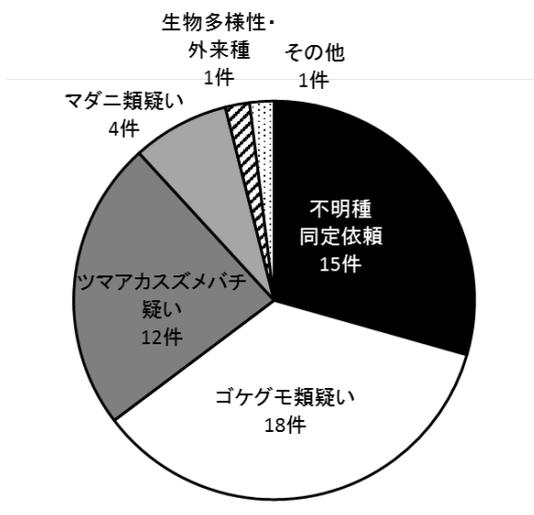


図2 2015年度における内容別の問い合わせ件数

問い合わせの具体的内容は、ゴケグモ類疑い種に関する同定依頼が18件と最も多かった(図2)。これは前年度と同様の傾向である。ゴケグモ類疑い種の問い合わせは2010年度、2011年度はそれぞれ1件であったが、2012年度は33件、2013年度は27件、2014年度は29件と急増している¹⁻³⁾。2015年度は18件と昨年度よりやや少ないものの、引き続き本種に対する意識の高まりは継続していると考えられる。しかし、ゴケグモ類疑い種として問い合わせがあった18件のうち、セアカゴケグモは1件のみで、その他はオオヒメグモが3件、タカラダニ類が付着したザトウムシ目の一種が2件、マダラヒメグモが2件、オニグモが1件、コゲチャオニグモが1件、ヒラタグモが1件、カバキコマチグモが1件、ヒメグモ科不明種が4件、オニグモ科の一種が1件、タカラダニ類が1件であった。

また、本年度は特定外来生物であるツマアカスズメバチ

疑い種に関する問い合わせが12件と急増した。本種はこれまで国内では対馬でのみ定着が確認されていたものであるが、2015年9月に北九州市で生きた個体が採集され⁴⁾、そのことが広く報道等で周知されたことが主要因と考えられる。実際に問い合わせ件数は9月に集中している。なお、当所に問い合わせがあったハチ類にはツマアカスズメバチは含まれておらず、オオスズメバチが3件、ヒメスズメバチが3件、コガタスズメバチが3件、キイロスズメバチが1件、セグロアシナガバチが2件であった。

ゴケグモ類疑い種、ツマアカスズメバチ疑い種以外の不明種同定依頼のうち、種まで同定できたのはブリ糸状虫(1件)、セイタカアワダチソウヒゲナガアブラムシ(1件)、クビキリギス(1件)、ネコノミ(1件)、コガタノゲンゴロウ(1件)、ニセセマルヒョウホンムシ(1件)、ヌノメカワニナ(1件)、カスミサンショウウオ(卵のう)(1件)、ミシシビアカミミガメ(1件)、シマヘビ(1件)、ミヤマホオジロ(1件)、ハヤブサ(1件)であった。2013年度に多かったマダニ類に対する問い合わせは、2014年度の2件に引き続き2015年度も4件と少なかった。

当所に持ち込まれるこれらの問い合わせは、県下で実際に起こっている生物に関する問題の現状を知る機会にもなりうるので、今後も記録を集積していきたいと考えている。末筆ながらクモ類の同定に際して種々ご教示いただいた国立研究開発法人農業環境技術研究所の馬場友希博士にこの場を借りてお礼申し上げる。

文献

- 1) 中島淳, 石間妙子, 須田隆一: 過去3年間(平成23-24年度)における生物(動物関係)に関する問い合わせ状況, 福岡県保健環境研究所年報, 40, 137-138, 2013.
- 2) 中島淳, 石間妙子, 須田隆一: 平成25年度における生物(動物関係)に関する問い合わせ状況, 福岡県保健環境研究所年報, 41, 151-152, 2014.
- 3) 中島淳, 石間妙子, 金子洋平, 須田隆一: 平成26年度における生物(動物関係)に関する問い合わせ状況, 福岡県保健環境研究所年報, 42, 141-142, 2015.
- 4) Minoshima, Y., Yamane, S., Ueno, T.: An invasive alien hornet, *Vespa velutina nigrithorax* du Buysson (Hymenoptera, Vespidae), found in Kitakyushu, Kyushu Island: a first record of the species from mainland Japan, Japanese Journal of Systematic Entomology, 21, 259-261, 2015.